

**JAGT**  
**日本ゲシュタルト療法学会第3回学術大会**  
**プログラム**

大会テーマ

「多様な現場で活用されるゲシュタルト療法の役割」

開催：2012年 7月14日（土）・15日（日）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター  
センター棟 4階

大会長：岡本茂樹（立命館大学）

後援

日本ロールレタリング学会  
日本産業カウンセラー協会  
日本交流分析学会  
日本交流分析協会



# 第3回大会に寄せて

日本ゲシュタルト療法学会第3回学術大会

大会長 岡本 茂樹

本年度の日本ゲシュタルト療法学会第3回学術大会は東京で開催することになりました。大会テーマは「多様な現場で活用されるゲシュタルト療法の役割」です。今回は、前回大会の内容をさらに発展させたものにしたいとの思いから、このテーマにいたしました。第2回大会を振り返りますと、テーマのひとつである「これまでの軌跡」として、S.F.クロッカー博士の講演から、ゲシュタルト療法の根底に流れる現象学の理論について貴重な学びを得ることができました。そして、もうひとつのテーマである「これからの発展」は、会員による研究発表において、多様な現場でゲシュタルト療法が活用されていることを学ぶことができました。クロッカー博士ならびに発表して下さった会員の皆さま、ならびに第2回大会に参加していただいたすべての方々にお礼申し上げます。

今大会では、前回の大会で得た貴重な知見を踏まえて、ゲシュタルト療法が、多様な現場でさまざまに応用され活用されることが必要であることから「役割」という視点を取り入れました。数ある心理療法のなかで、とくに「感情」を重視したゲシュタルト療法は、理性といった「思考」に重きを置いている現代社会において、今最も必要とされる心理療法といっても過言ではありません。例をあげれば、「寂しい」という素直な感情を出せないがゆえに、「強くならなければならない」「しっかりした大人にならないといけない」といった思考が強く働いた結果、心の病に陥ったり犯罪を起こしたりする者さえいます。人間の原点である「感情」という大切な宝が軽視されているのです。その意味で、「今、ここ」で生き辛さを感じている人々だけでなく、普通に生活している方々にとっても、感情体験を重視するゲシュタルト療法が今こそ必要とされています。すなわち、ゲシュタルト療法が担う「役割」は大きいものと考えています。

第3回大会では、日本ゲシュタルト療法学会の理事長である百武正嗣先生に基調講演を行っていただき、ゲシュタルト療法の実践に不可欠な知識を深めたいと思います。そして、午後の研究発表では、昨年同様、多様な現場における実践の成果を発表していただきます。二日目の体験的ワークショップとシンポジウムでは、体験的理解や理論、実践報告などさまざまな分野における学びの場にしたいと思っています。

前回大会と同様、本大会も実りあるものとなりますよう、皆さま方のご参加をお願いいたします。



## 【大会プログラム】

第1日目 7月14日(土)

会場：センター棟 402号室

9:30~	受付
10:00	開会式
10:10	<p><b>基調講演 百武正嗣 (日本ゲシュタルト療法学会 理事長)</b>  <b>「家族連鎖の基本的な理論とアプローチ」</b></p> <p>家族は特有な「時間と空間」を共有している独特な集団です。そのために家族関係では個人の「未解決な問題」が家族のメンバーに影響を与え合います。家族の親が「未解決な問題」を持っている場合は子どもにどのように伝わるのでしょうか。世代間の「未完了」な問題は次の世代に伝わり家族連鎖を引き起こします。この家族連鎖を「場の理論」とゲシュタルトアプローチで理解していきます。</p>
11:40	総会
12:20	<p><b>昼食・休憩</b></p> <p>※食堂は4か所(センター棟内に2か所)あります。          会場室内での飲食は禁止</p>
13:30	<p><b>特別講演 馬屋原眞美子 ((株)東中国カウンセリングセンター)</b>  <b>「東北被災地 時間経過に観る力と課題」</b></p>
14:10	<p><b>研究発表1</b>          座長 江夏 亮 (カリフォルニア臨床心理大学院・江夏心の教育相談室)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宮木 智子 ((株)新医療総研 こぐま薬局)              「薬剤師が行うゲシュタルトアプローチの事例報告」</li> <li>2. 堤 俊也 ((株)ヒーリング・サポート はるかぜ薬局)              「心理的背景に着目した調剤過誤対策と効果」</li> <li>3. 河村 葉子 ハートフリースペース              「摂食障害に対するゲシュタルト療法を用いた面接過程」</li> </ol>
15:40	(休憩)
16:10	<p><b>研究発表2</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 成田 幸子 (HEALING ROOM NARITA)              「エンプティ・チェアを活用した試み~人生を書き換える~」</li> <li>5. 藤原 勝 (ビジョンカム・トゥルー)・白坂 和美 (ハロー)              「日本文化(武道)とゲシュタルトセラピー              ~メキシコでの世界大会に参加して~」</li> </ol>
17:10	終了
18:00~ 20:00	<p><b>懇親会</b> 会場：国際交流棟 1階 レセプションホール1 (禁煙)          (19:30まで飲み放題)</p>



第2日目 7月15日(日) 会場：センター棟 402号室・404号室

9:30~		受付
体験的ワークショップ	10:00	<p>■体験的ワークショップ1 <span style="float:right">会場：404号室 402</span></p> <p>司会者 山本 誠司 (G A Fnet)</p> <p>発表者 百武 正嗣 (日本ゲシュタルト療法学会 理事長) 「家族のワーク」</p>
	10:00	<p>■体験的ワークショップ2 <span style="float:right">会場：402号室 404</span></p> <p>司会者 河村 葉子 (ハートフリースペース)</p> <p>発表者 守谷 京子 (パーソナルグロース研究所) 「企業管理職向けワークショップの実際」</p>
12:30		<p>昼食・休憩</p> <p>※食堂は4か所(センター棟内に2か所)あります。 会場室内での飲食は禁止</p>
13:30		<p>シンポジウム <span style="float:right">会場：404号室 402</span></p> <p>「多様な現場で活用されるゲシュタルト療法の役割」</p> <p>本大会の「多様な現場で活用されるゲシュタルト療法の役割」のテーマに基づいて、各領域で活躍されている4名のシンポジストから、活動内容を報告していただきます。そのうえで、フロアーからの質疑応答の時間をとり、ゲシュタルト療法が多様な領域で活用できる可能性を探っていきます。</p> <p>司会者 藤原 勝 (ビジョンカムトゥルー (株))</p> <p>シンポジスト 岡田 法悦 (産業領域) (ゲシュタルト・インスティテュート)</p> <p>江夏 亮 (臨床領域) (カリフォルニア臨床心理大学院・江夏心の健康相談室)</p> <p>定行 俊彰 (教育領域) (宮城県公立小学校教員)</p> <p>岡本 茂樹 (司法領域) (立命館大学)</p>
16:10		閉会式



## 「家族連鎖の基本的な理論とアプローチ」

百武 正嗣 (日本ゲシュタルト療法学会理事長)

---

### <ゲシュタルト療法とその理論的な背景>

1. ゲシュタルト療法とは  
フレデリック・パールズ(*Frederick S. Perls*)  
ローラ・パールズ(*Larura Perls*)
2. ゲシュタルト心理学  
ゲシュタルト(*Gestalt*)  
世界をどのように知覚するのか  
全体は個の総和より意味のあるもの
3. 影響を受けた哲学  
現象学 実存主義
4. 身体型中心療法  
ウィルヘルム・ライヒ(*Wilhelm Reich, 1897-1957*)  
性格の鎧 心理的な性格の鎧は  
筋肉の鎧 身体的な筋肉の鎧へ
5. ホメオスターシス(恒常性)

### <家族のワークの理論>

1. エンプティチェア・テクニク  
いつエンプティチェアは開発されたのか。  
誰が最初に使ったのか
2. トップドックとアンタードック  
対立したものを統合する  
二極性
3. 家族とグループ  
グループの力学
4. 親と子の葛藤
5. 感情には  
家族システムが創り出す感情  
個人の感情



## <家族連鎖の理論とアプローチ>

高橋 隆博

### 1. 場の理論

Field Theory

クルト・レヴィン(*Kurt Lewin, 1890-1947*)のグループダイナミクス

個人の心理学

場あるいは環境による動機付け、欲求

### 2. 磁場の理論

1980年代ジエイムス・マックスウエルとミッシェル・ファラデー

物理学の磁場(Magnetic Field)

### 3. 家族のダイナミクスに

空間には座る位置が生まれる

特定の空間には役割が生まれる

空間には上位と下位が生まれる

空間には時系列の流れが生まれる

### 4. 家族の力学

家族療法とバージニア・サティア(*Virginia Satir, 1916-1988*)

家族彫刻

ボウエンの家族システム理論(Murray Bowen,) 多世代理論

家族コンステレーション

### 5. ゲシュタルト療法から見た家族連鎖

未解決な問題

家族のインパス

### 6. エンプティチェアの効用

- ・ 内面世界の外在化
- ・ 精神の身体化
- ・ 家族の葛藤の視覚化
- ・ 家族のインパス(行き詰まり)のイメージ化
- ・ 世代伝達の構造の視覚化

### 7. ソマテック心理学(身体心理学)

- ・ ミラーニューロンと家族の隠されたメッセージ



## 心理サポートの観点から 東北被災地 時間経過に視る力と課題

馬屋原 眞美子 (関東中国カウンセリングセンター)

---

### 1. 2011. 3. 11. 東北を中心に日本に起こったこと

#### 1) 千年に一度の未曾有の大震災と大津波に遭遇して

① 突きつけられた現実

② 避難行動を左右したもの

### 2. 東北地方に受け継がれる文化・風土・人間性

#### 1) 奥ゆかしさ・察しの文化

① 感情を表すことを善しとしない文化

② 地元意識・身内に対する繋がり感の強さ その功罪による苦悩

### 3. 時間経過の中で表面化して来たもの

#### 1) 支援の在り方と自立への妨げ

① Maslow, Abraham H.: 「欲求の階層説」

・物資支援から精神的支援へ

② 支援する側とされる側 (ボランティアのあり方)

・自立へ向けての支援を

### 4. ゲシュタルト (人間性心理学派・実存主義心理学派) 的観点からの考察

#### 1) 東北被災地の独自性課題

① 根付いて来た精神分析学派によるアプローチが生み出しているもの

② 子どもが子どもとして生きるということ

③ 次世代に引き継がれるもの

#### 2) 被災地から見えてくる日本人全般に通じるメンタリティの課題



## 薬剤師が行うゲシュタルトアプローチの事例報告

宮木 智子 (株式会社新医療総合研究所 こぐま薬局)

### I. 目的

ゲシュタルトの理論は心理学やカウンセリングにおいて浸透しているが、『ゲシュタルト』という言葉の認知度は高くないと思われる。医療現場においても心療内科や精神科など特別な領域を除き一般の診療科、保険薬局ではさらに認知度が低い現状がある。まずは『ゲシュタルト』という言葉の認知度を上げることに貢献する目的で、薬剤師の研修や薬学生の授業の中で意図的に『ゲシュタルト』を伝えること試みた。また一方、薬剤師はストレスが高い職種であり、ストレスを抱えた状態での職務遂行は調剤ミスなどにつながる危険性がある。これを改善または予防する目的で、『気づきのワークシート』を用いストレスを自己コントロールする研修を行った。集団へのアプローチだけでなく、患者と一対一の服薬面接においても患者自ら気づくことで、服用薬の減量につながるのではないかとこの仮説をもち試みた。

### II. 事例の紹介

#### 1. 集団へのアプローチ

##### 1) 薬剤師のコミュニケーション研修や薬学生の患者コミュニケーションの授業において

患者対応におけるスキルアップを目的とし、患者の真のニーズをつかみ気持ちに沿ったケアを行うためには、薬剤師が効果的な質問を行うことで導いていける。その事例を患者と薬剤師の対話で紹介し、解説の際にルビンの杯の図を用い、ゲシュタルトの地と図の理論を紹介した。

##### 2) ストレスマネジメント研修において気づきのワークシートを用いたケース

都内チェーン薬局の薬剤師(3年目)32名に対するマネジメント研修の1つとして、ゲシュタルトを組み込んだストレスマネジメント研修を行った。最初に受講生に気づきのワークシートを記入してもらい、気づきの3領域、ペアで気づきのワークを行い、その後希望者(受講生)によるセッションを1回行った。セッション後、受講生全員に気づきのワークシート(⑨)を仕上げてもらいグループダイナミックスの効果を期待した。

#### 2. 患者個人へのアプローチ

##### 1) 薬剤師による服薬面接におけるケース

###### ① O.M (40歳) 女性のケース

Rp	デパス錠 0.5mg	2錠	1日1回就寝前	28日分
	ワイパックス錠 0.5mg	6錠	1日3回毎食後	28日分

神経症で内服薬(ワイパックス:抗不安薬、デパス:抗不安薬・眠剤)にて治療中の患者。気分が落ち込むことがあり、ストレスがかかると特にひどくなる。また、生理前はイライラしたり倦怠感があり不安定になる。ワイパックスは朝、昼、寝る前の1日3回服用しているが、気分が落ち込むときなどは夕方にも飲んで(主治医もそれで気分が落ち着くならそれでいいと言っている)。もともとアトピーもっており、精神状態とアトピーの症状も関連性があるようだ。ある服薬面接



で薬剤師のゲシュタルト的なアプローチにより症状がよくなっていることに自ら気づき、それを境にワイパックスが減量されていった。

②H.N (56歳) 男性のケース

Rp リタリン錠チバ 1錠  
ガスモチン錠 5mg 1錠 1日1回 朝食後 30日分

ナルコプレシーと高血圧症で治療中。仕事中に眠たくなるためリタリンを服用しており、休日は何んではないが眠くならない。ガスモチンはリタリンによる胃腸障害のため飲んでいる。下痢も続いており市販の整腸剤を併用している。不眠を訴える。高血圧症（バイミガード、テノーミン）でかかっている内科でハルシオン（眠剤）ももらっているが、薬には頼りたくないあまり飲まないでいる。夜眠れないよりも日中仕事の時に眠くなるほうが困るという理由である。ある服薬面接で薬剤師のゲシュタルト的なアプローチにより仕事のストレスから症状が起きていることに自ら気づき、それを境に心療内科の薬は飲まなくなった。

【気づきのふりかえりシート】

◎最近、ストレスを感じたことをふりかえり、その場면을思い出して整理してみましょう。

- ① 誰に対して感じましたか
- ② それはいつごろ起きましたか
- ③ それはどこで 起きましたか
- ④ それはどんな状況でしたか
- ⑤ その時、相手のどんな言動（したこと、言ったこと）が気になりましたか
- ⑥ 相手の言動によって自分に何が起きましたか（感情、身体変化）
- ⑦ その結果、自分はその場をどのような方法で対処しましたか
- ⑧ 今、思うとどうしたらよいと思いますか
- ⑨ このワークで気づいたことを書きましょう



## 心理的背景に着目した調剤過誤対策と効果

堤 俊也 (株式会社ヒーリング・サポート はるかぜ薬局)

### 【目的】

心理的背景に着目したヒヤリハット対策ワークショップでは、参加前・参加後各4週間のエラーは有意に減少した。これを踏まえ、ワークショップと同様に体験学習を導入した90分の医療安全研修(4名についてはワークショップも)を実施した。その結果、受講者は受講前・受講後各3週間のエラー数が有意に減少し、未受講者の前後のエラー数に有意差はなかった。受講者のエラーはどのように減少したのかを、スリップ、ミステイク、それぞれのブロッキング現象の有無に分けて検討する(1)。

また、予測や連想がどの程度思い込みエラー(ミステイク)を誘発するかを調査し、対策を検討する(2)。

### 【方法】

受講者のエラー調査票から、スリップ、ミステイク、それぞれのブロッキング現象の有無を計数し、受講前後でどのようにエラーが減少したかを調査する。スリップとミステイクの定義については、調査開始時に伝達した。統計解析にはt検定を用いる(1)。

アンケート調査を行い、複数の規格がある薬品について、最初に連想する薬品をエラーして調剤するかどうかを問う。また、処方せんの内容に影響され、似た名称を誤って連想するかを問う(2)。

### 【結果】

#### (1)の調査に関して

受講者37名、アンケート回収32名(回収率86.5%)、データ不備などで4名を解析から除外した。

1) エラー総数は、受講前128例、受講後89例に( $p < 0.005$ )減少していた。同じく、スリップ総数は68例が37例に( $p < 0.005$ )、ミステイク総数は56例が48例に(NS)減少していた。

2) ブロッキング現象の有無で分類すると、ブロッキング現象の記入なしのスリップは31例から16例に( $p < 0.005$ )、同記入ありのスリップは37例から21例に(NS)、同記入ありのミステイクは26例から16例に減少していた(NS)。ブロッキング現象の記入なしのミステイクは30例から32例に増加していた(NS)。

3) 受講前のエラー数の平均値4.57の上下で分けた場合、エラー数4以下では51例が41例に(NS)、エラー数5以上では77例が48例に( $p < 0.005$ )減少していた。

4) ブロッキング現象記入の有無で分けると、記入ありでは105例が72例に( $p < 0.005$ )、記入なしでは23例が17例に(NS)減少していた。

#### (2)の調査に関して

ガスターと聞いて連想する規格を問い、その規格を間違っピックアップすることが多いと感じるかどうかを聞いた。ガスターは剤形が3種類、それぞれ異なる規格が2種類、合計6種類の製剤が販売されている。サンプルにもよるが23~65%が最初に連想する規格・製剤を誤って調剤することが多いと回答した。

また、マーズレン、ムコスタ(共に汎用される胃潰瘍薬)に続いて一部伏字をした薬品名「ザンタック錠100」は何かを問うた。ザイロリック錠100(痛風・高尿酸血症治療薬)が正解であるが、ザンタック錠(胃潰瘍薬)と回答したものが25~43%存在した。ザンタック錠に100mgの規格はないので、連想しなければ規格からザンタックではないことはわかる。



## 【考察】

### (1) の調査に関して

結果1) より、事前のエラー調査をもとに、体験学習を導入した研修でも、エラー数に好ましい影響を与えることが確認できた。

結果2) より、有意差はなかったものの、ブロッキング現象はスリップとミステイクの双方に関与していることが推定できた。脳のワーキングメモリモデルに当てはめれば、ブロッキング現象による自己モニター機能、知覚処理能力の減退、短期記憶領域のメモリ不足などによりスリップやミステイクに関与すると考えられる。

結果3) は、これまでのワークショップでのデータと矛盾しなかった。

結果4) より、自分の心理状態に気づくこと（ブロッキング現象に気づくこと）が、注意を調剤にひき戻し、エラーを減少させる。

### (2) の調査に関して

これらの結果から、想像や連想がミステイクに関係している。現実には注意を向けず、想像・連想の世界を現実と誤認することがミステイクエラーの本質ではないだろうか？ 思い込んでいるかどうかは確認しがたいが、想像・連想していることに気づくことは比較的容易である。実際、ワークショップで「気づきのワーク」などで現実と想像・連想との違いを体験することで、ミステイクエラーの減少が起こる。

エラー後の対策のほとんどは”もっと注意する”に収束してしまう。自分の心理状態に気づくことこそ、その本質的な対策になり得るだろう。



## 摂食障害に対するゲシュタルト療法を用いた面接過程

河村 葉子 (ハートフリースペース)

**【目的】** 摂食障害についてはさまざまな仮説が論じられてきているが、いずれにしても診断基準に含まれる不食、過食、自己誘発性嘔吐などのパージングといった行動の背景には、精神的要因が大きく影響していることが共通の理解になってきている。ほとんどのクライアントは周囲から不食、過食行動についての批判や、やせたい等体型に関する認知について批判を受けたように感じている経験を持っており、ますます自尊感情を持てなくなっているという悪循環がみられる。ゲシュタルトでは、行動はその人にとって意味のあるバランス調整機能であると考えられるため、認知や行動を変えることを直接の目的としない。そのため面接への抵抗が生じにくいと考えられる。現れている行動はその人自身の表現であるという仮説に基づき、摂食行動における「拒否」または「飲み込みと吐き出し」に着目し、ゲシュタルト療法アプローチによる面接を行った。

**【方法】** 医師により摂食障害と診断され当カウンセリングルームに來所したクライアントに対しゲシュタルト療法アプローチで面接を実施した。

### 【結果・考察】

ケースA: 19歳。様子がおかしいと心配した母親に連れられて來所した。母親の前では何も話さないが、カウンセリングをする意思が確認できた。12歳で神経性無食欲症(制限型)を発症し、約1ヶ月間の入院歴がある。來所時はむちゃ喰い/排出型の症状があり、止めたいが止められない自責感と無気力、憂うつ感、自殺念慮等を訴える。

現在の健康状態と生理学的知識を確認したうえで、過食については自由にするよう伝えてから面接を開始した。

行動が「拒否」であることから、呼吸、リラクゼーション等身体アプローチを中心としながら、ゆっくりと身体感覚の気づきを支援していくことから始め、今-ここのプロセスを重視して進めた。段階を追って心的抵抗、葛藤が明らかになっていく際も、その抵抗が今起きていることを積極的にフィードバックすることで、「どうしたいのか」「何を望んでいるのか」を意識し、選択する体験を通じ、分割している自己の統合へ向けて働きかけた。時には面接を打ち切り一緒に遊ぶなど、選択肢が多様にあることを体験してもらうことが、いろいろな気持ちになる現実生活における気づきを促進した。

ある時、母親のダブルメッセージに気づいた面接で強い怒りを感じた後、劇的に快活さが表出した。その様子は小さな女の子のように見えた。一時的に過食症状が治まった。

約1ヵ月後、過食が再燃する。葛藤が深まっており、積極的にフィードバックしながら、そのつど「どうしたいか」を意識してもらうことを重視した。この頃からエンプティチェア・ワークも対話へとプロセスが深まった。徐々に、日常で嫌だという気持ちや自分の意見を言えるようになっていて、毎日が楽しくなった、という報告も聞かれるようになった。

初回面接から1年8ヵ月後、むちゃ喰い/排出型の症状が数ヶ月ないこと、この間に就職もしており、職場でのストレスにも対応できていることを確認して面接を終結した。



ケース B : 21 歳。14 歳から神経性無食欲症（むちゃ喰い／排出型）で、時に過度な運動による体重調整を試みている。太ることに強い恐れがあり、太っていないことはわかっているがやめられない、とにかく過食しなくなりたい、というのが訴えであった。話す様子からクライアントの無力感が読み取れた。現在の健康状態と生理学的知識を確認し、面接を開始した。

クライアントは初期段階より母親に対して葛藤を抱えていること、これまでにあった出来事などを話した。エンプティチェアを使用しながら面接を進めた。葛藤と向き合いたくない、向き合うのが辛い、といった抵抗に対し、ワークを無理に進めないという態度で受容を示しながら、気づきの促進を図った。未完了の感情に触れた時はすっきりとし、過食の間隔が空くなど一時的な効果は見られたが、5 ヶ月後に「少し様子をみたい」と申し出があり、面接が中断した。

ケース B における中断は、「拒否」という行動パターンの変容支援の失敗である。過食行動が問題であるというクライアントの訴えのまま進めたこと、ワークによって浮上した抵抗を受容していることで、クライアントは安心を感じて自分の気持ちを自発的に話している。一方で今ここで起きていることを言葉でフィードバックをしなかった、つまり現象を扱わなかったことが、クライアントの直面しない、拒否する行動の受容になったと考えられ、統合に向けての気づきを促進しなかった。

ゲシュタルト療法では、統合されていない人格は感情を自己のものとして経験しないことから生じると仮説しているが、ケース A からわかるように、今ここで起きている現象を丁寧に扱っていくことが、クライアントの気づき、つまり自らの感情を意識化することを促進するのである。気づきのある状態であれば選択が可能であり、面接のプロセスを通じて統合へと志向する人間の責任性をクライアント自らが取り戻したといえる。

1 年 8 ヶ月という面接期間は大変長期だが、摂食に関する行動を問題として扱わないことと、プロセスを操作しないことがクライアントの自己肯定感を促進し、面接継続の意欲を維持したと考えられる。しかしながら、今後もプロセスの促進を的確に支援できるよう自己成長に努めたい。



## エンプティチェアを活用した試み～人生を書き換える

成田 幸子 (HEALING ROOM NARITA)

### 1. 目的

エンプティチェアはただの空椅子であるが役を与え「今・ここで」で体感することでさまざまな気づきや変化が起こる。その「なる」ことで結果として起こる気づきを目的に、自らのスペシャル(完結)な人生を体感(「なる」)する手法を考案し実践した結果を報告する。

### 2. ワークの方法

1) 記録用紙・・・別紙図1

2) 記載方法・・・今までの人生の中でネガティブな出来事(未完の問題)を5つ挙げ記録する。但し、1つ目(最初)の問題は3歳前後まで、5つ目(最後)は現在または直近の問題であること、それらを時系列に記載する。

3) ワークの手順 ※これ以降はエンプティチェア=座布団

①記入紙に記載する。

②ニュートラル(真ん中)の座布団に立ってもらい右と左の全体を見渡す。

③今までの人生を体感(なる)する。

(ア) 現在の座布団(右側一番奥)に立ち紙に記載した内容を現在進行形で語りその状況に身を置き充分体感する。充分体感したら次の座布団に移動する。

(イ) 順を追って5か所全部で(ア)と同様に内容を語り「なる」を体感する。

④ニュートラルの座布団に移動し、もう一度左右の人生(座布団)を見渡す。

⑤次にスペシャル(完結)な人生を創造し体感(なる)する。

(ア) 左側の一番手前の座布団(3歳前後)に立ち、自分が現時点でイメージ出来る最大限のスペシャルな人生を描く。その描いた人生を主語をつけ現在進行形、肯定文で語り「なる」を充分体感する。

(イ) (ア)の体感のまま少しずつ成長していく事をイメージしながら次の座布団に移る。そこで「なる」を体感した結果イメージされる人生を(ア)と同様の表現方法で語る。

(ウ) (イ)と同様に各座布団を体感し語る。

(エ) 5つ目(現在)の座布団に立ち「なる」を充分体感し、その結果として得た気づきを語る。

⑥最後のニュートラルの座布団に立ち、両方の人生を見渡す。

### 3. 対象

主に自己変容・成長を目的としてワークショップに参加している方

### 4. 事例

1) 40歳前半 女性 専業主婦 10代は買い物依存症。やりたい事(ステージで歌う)があるがなかなか思うように事が進まない。思うように事を進められない自分に対して苦悶しており、ここ1か月は引きこもり状態で夫以外の人と話をしていない。ワークを終えて「なんだかスーといっちゃいけないような気がしていたけど、やりたいと思う事にスーとそのまま入って行けばいいんだ。」という気づきを得た。

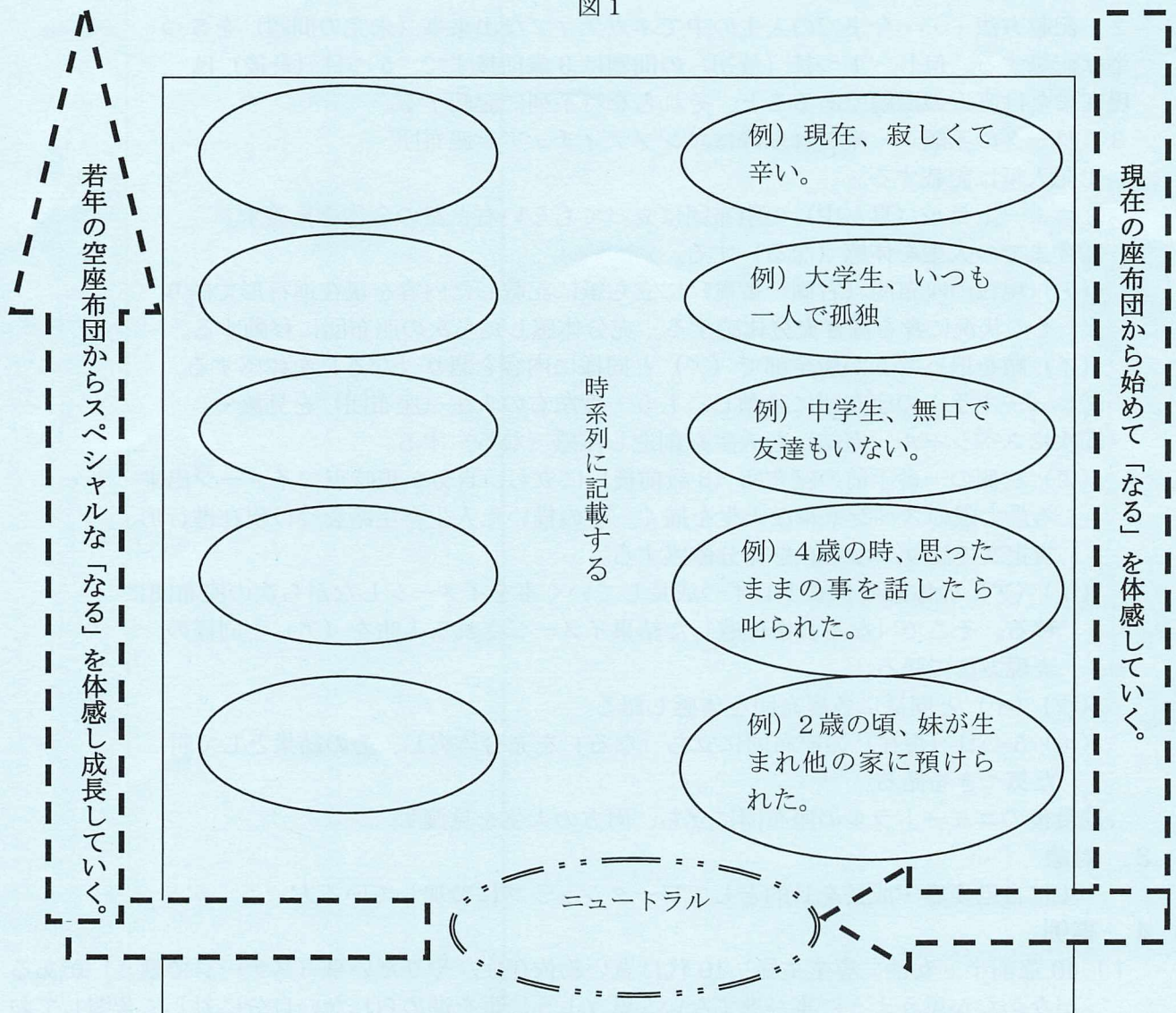


2) 50 歳前半 女性 看護師 家族にとっていいお兄ちゃんを演じている夫とその両親のもとでいい嫁をやる事で息苦しさを感じている。夫と同居しているが戸籍上は離婚（親族に内緒にしている）。いつも「否定されている感じ」がする。人と関わる時は自分がここにいていいのか不安で自分の居場所が無い。ワークを終えて「自分は否定されていない」と思えるから“ここにいていいのかな？”という不安を持たずにここに居るし人と関わってける感じ」という気づきを得た。

### 5. 結論と今後の課題

自らが創造したスペシャルな人生を座布団（なる）で体感した結果、ポジティブな気づきと認知の肯定的変化がみられた。この手法はエンプティチェアの新しい活用方法として有効と思われる。今後は対象や問題によって用紙の記載方法やワークの手順などを検証していきたい。

図 1





## 日本文化(剣道)とゲシュタルトセラピー

藤原 勝 (ビジョンカムトルー株式会社)

協力; 白坂和美 (ハロー)

**【目的】** 剣道を主とする日本文化を究める中で、ゲシュタルトセラピーのセラピストとして必要な資質(心とスキル)を探求する

**【方法】** 日本剣道形3本までをAAGTメキシコ大会の参加者に披露し体感してもらう。

## ～詳細～

(1) 2012年5月17日(木)～20日(日)までのメキシコ、プエブラ市でAAGT (Asociation Advanced Gestalt Therapy) のカンファレンスにて百武正嗣氏、白坂和美氏、藤原勝で下記ワークショップを実施した。

(2) タイトル; 「日本文化と心と身体との統合～剣道とゲシュタルトセラピー」

(3) 構成; 前半 剣道とゲシュタルトセラピー(本稿はここについて報告)

後半 「身体症状」に焦点を当てる(百武氏担当)

(4) 「剣道とゲシュタルトセラピー」

① 発表者(藤原)は組織変革コンサルタントであり、ゲシュタルトセラピーを学んでいる。同時に40年以上剣道に携わっており現在七段。今回、剣道とゲシュタルトセラピーの共通点につき報告したい。

② 剣道の目的は「剣の理合いの修練による人間形成」である。元々は戦場における殺傷の術だったのが、長い年月をかけて厳しい修練による自己鍛錬と対人尊重の修行の手段として変わっていった。

③ 剣道では竹でできた竹刀で稽古を行うが、高段者になると竹刀を真剣とみなして稽古をする。真剣として扱うと稽古すると動きが変わってくる。竹のように振り回すことはできない。一振りで生死が決まるので、十分準備をして一太刀に掛ける。刀を振る時は身を捨てる。逆説的な意味だが、「身を捨ててこそ、浮かぶ瀬もある」(死の覚悟があるから、死地から生還できる)。この体験を通して、人格が磨かれ、無心の境地が体得できる。

④ 約100年前に日本全体で数十あった各流儀の形が日本剣道形として、10本に統一された。最初の3本に剣道の理合いが凝縮されている。

一本目; 強さを磨く。相手の強さにひるむことなく自己主張できる強さである。

二本目; 相手の動きを察して、最小限の反撃をする。相手に対しての感受性が養われる。

三本目; 相手の攻撃をいなし、無殺傷で相手の動きを封じる。



④実際にメキシコの大会では白坂氏と日本剣道形を実演した後、参加者にも木刀を模した棒を渡し、実演してもらった。

⑤参加者の実演で強調した点は下記の通り。

- ・ 剣を持って礼；相手への尊敬の念を表す。
- ・ 三歩の前進；一歩目はまだ距離的に余裕がある。自己及び自己以外の環境を観察し、境界に接しながらゆっくり進む。二歩目は「命の交換」に行く覚悟を決める。恐怖などが出てくるが、捨て身＝無心で打つ。三歩目はもう相手の「刃の下」、思い切って進む。
- ・ 蹲踞の後、五歩下がる；心を平常に。
- ・ お互いに上段で、進み、打太刀が面を相手の手もろとも切ろうとしたところ、仕太刀は無駄なく剣を抜いて相手の面を打つ。お互いに無心で打つ。
- ・ 残心；打たれた打太刀が動こうとするところを仕太刀は油断なく構える。

⑥剣道とゲシュタルトセラピーとの関係(共通点)

剣道で目指すのは「無の心境」である。相手に内界変化（恐懼疑惑）を起こさせ、「今ここで起きている」相手の動きに対応する。

ゲシュタルトセラピーではクライアントの外界、中間領域、内界の内、内界を扱う。セラピストはクライアントのすべてを見つつ、内界を扱う。自分については中間領域、内界は無である。クライアントの起きたことについていく。両者の目指すところはこの点で近似する。

⑦日本文化とゲシュタルトセラピーとの関係(共通点)

日本文化の一つの特徴は「究める」ことである。典型は茶道、華道、剣道、柔道などの「道」である。共通しているのは不要なものをそぎ落とし、本質に迫る事である。

ゲシュタルトセラピーもクライアントの主訴の一番深いものは何かをともに探求する。そこに近似点がある。

**【結論】** 剣道を中心とする日本の文化とゲシュタルトセラピーの共通点、セラピストとして必要な心境、スキル(無心＝「今ここで」になること)について訴求することができた。



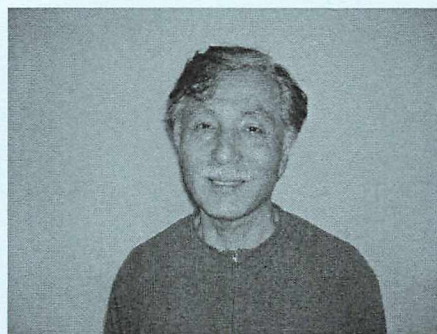
体験的ワークショップ1

7月15日 10:00~12:30 会場:402号室

## 「家族のワーク」

百武 正嗣 (日本ゲシュタルト療法学会 理事長)

家族における親子関係は個人の<未完了>な課題と家族システムから生じた課題がある。家族システムから作り出された「インパス(行き詰まり)」の背景には、世代の<未完了>な出来事が背景にあることもある。家族のワークを通して、「場の理論」と「家族連鎖」の関係をみていく。



体験的ワークショップ2

7月15日(日) 10:00~12:30 会場:404号室

## 「企業管理職向けワークショップの実際」

守谷 京子 (パーソナルグロース研究所)

企業管理者向けワークでは、時代の競争と文化の中での「インパス(行き詰まり)」、個人レベルでの「インパス」に対峙し、ワークで生じる抵抗を通し、自己のパターンとブロックを知り、各自の壁を破り、気づきを用い「今ここ」に即した決断を得、行動するなど、参加者の「人間力」の可能性を広げます。





 **日本ゲシュタルト療法学会**



# JAGT

日本ゲシュタルト療法学会第3回学術大会 (第1報)

プログラム

大会テーマ

「多様な現場で活用されるゲシュタルト療法の役割」

開催：2012年 7月14日(土)～15日(日)  
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター  
大会長：岡本茂樹(立命館大学)



## 第3回大会に寄せて

日本ゲシュタルト療法学会第3回学術大会  
大会長 岡本 茂樹

本年度の日本ゲシュタルト療法学会第3回学術大会は東京で開催することになりました。大会テーマは「多様な現場で活用されるゲシュタルト療法の役割」です。今回は、前回大会の内容をさらに発展させたものにしたいとの思いから、このテーマにいたしました。第2回大会を振り返りますと、テーマのひとつである「これまでの軌跡」として、S.F.クロッカー博士の講演から、ゲシュタルト療法の根底に流れる現象学の理論について貴重な学びを得ることができました。そして、もうひとつのテーマである「これからの発展」は、会員による研究発表において、多様な現場でゲシュタルト療法が活用されていることを学ぶことができました。クロッカー博士ならびに発表して下さった会員の皆さま、ならびに第2回大会に参加していただいたすべての方々に  
お礼申し上げます。

今大会では、前回の大会で得た貴重な知見を踏まえて、ゲシュタルト療法が、多様な現場でさまざまに応用され活用されることが必要であることから「役割」という視点を取り入れました。数ある心理療法のなかで、とくに「感情」を重視したゲシュタルト療法は、理性といった「思考」に重きを置いている現代社会において、今最も必要とされる心理療法といっても過言ではありません。例をあげれば、「寂しい」という素直な感情を出せないがゆえに、「強くならなければならない」「しっかりした大人にならないといけない」といった思考が強く働いた結果、心の病に陥ったり犯罪を起こしたりする者さえいます。人間の原点である「感情」という大切な宝が軽視されているのです。その意味で、「今、ここ」で生き辛さを感じている人々だけでなく、普通に生活している方々にとっても、感情体験を重視するゲシュタルト療法が今こそ必要とされています。すなわち、ゲシュタルト療法が担う「役割」は大きいものと考えています。

第3回大会では、日本ゲシュタルト療法学会の理事長である百武正嗣先生に基調講演を行っていただき、ゲシュタルト療法の実践に不可欠な知識を深めたいと思います。そして、午後の研究発表では、昨年同様、多様な現場における実践の成果を発表していただきます。二日目の体験的ワークショップとシンポジウムでは、体験的理解や理論、実践報告などさまざまな分野における学びの場にしたいと思っています。

前回大会と同様、本大会も実りあるものとなりますよう、皆さま方のご参加をお願いいたします。



## 【大会プログラム】

### 7月14日(土)

- 9:30 受付
- 10:00 開会式
- 10:10 基調講演 百武正嗣(日本ゲシュタルト療法学会 理事長)

#### 「家族連鎖の基本的な理論とアプローチ」

家族は特有な「時間と空間」を共有している独特な集団です。そのために家族関係では個人の「未解決な問題」が家族のメンバーに影響を与えます。家族の親が「未解決な問題」を持っている場合は子どもにどのように伝わるのでしょうか。世代間の「未完了」な問題は次の世代に伝わり家族連鎖を引き起こします。この家族連鎖を「場の理論」とゲシュタルトアプローチで理解していきます。

- 11:40 総会
- 12:20 昼食・休憩
- 13:00 研究発表
- 17:15 終了
- 17:30 懇親会

### 7月15日(日)

- 9:30 受付
- 10:00 体験的ワークショップ1 / 体験的ワークショップ2
- 12:30 昼食・休憩
- 13:30 シンポジウム「多様な現場で活用されるゲシュタルト療法の役割」
- 16:10 閉会式

#### <研究発表募集>

1. 演題登録期間 2012年2月1日(水) 受付開始～  
2012年3月30日(金) 24時 受付終了
2. 発表抄録原稿 締め切り: 2012年5月31日(木)
3. 発表演題・抄録原稿の送り先(大会長宛てEメールか郵便でお申し込みください)  
(郵便の場合、データを同封のこと)

E-mail: sokamoto@fc.ritsumei.ac.jp

郵便: 〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町56-1

日本ゲシュタルト療法学会第3回大会長

立命館大学 産業社会学部 岡本茂樹 宛



#### 4. 発表者について

発表者は、演題締め切りまでに本学会会員であることが必要です。会員でない方は日本ゲシュタルト学会事務局（JAGT）までお問い合わせいただき学会入会の手続きをおとりください。

#### 5. 発表方法

一人当たり発表時間は30分とします（発表20分、質疑応答10分）。発表時に資料を配布される場合は、50部程度をご用意ください。口頭発表に際してはPowerPoint等の機器の利用が可能です。

#### 6. 発表抄録の作成要領

発表抄録原稿は下記の作成要領を参考にして、原稿をメール（添付ファイル）か郵便（データを同封）で第3回大会事務局（立命館大学 産業社会学部 岡本茂樹）までお送りください。様式は、A4版ワープロ用紙（白紙）に横書きとします。字体は明朝体とし、指定された字の大きさで作成してください（題目、発表者、所属は中央揃え、本文はヨコ40字×タテ40行）。枚数は2ページ以内です。

↑↓ (*上余白: 2cm あける)	
福祉現場におけるエンプティチェアの実践の試み	
(*タイトルの文字は12ポイント。1行あける)	
○○川 ○美 (○○○○クリニック)	
(名前の大きさは12ポイント・所属: の大きさは10.5ポイント。1行あける)	
【目的】福祉現場におけるエンプティチェア・テクニックを実践……	
【方法】○○クリニックの同意が得られたクライアントを対象に、エンプティチェア・テクニックを実施……	
(*左右余白 2cm)	↔
↔ 2cm	2cm
..... (*本文の文字の大きさは12ポイントとする)	
【結果・考察】エンプティチェアを実施したA群は、対照群と比べ……	
2cm	
.....	
本研究の結果から、.....	
↑↓ (*下余白: 2cm あける)	



## 7. 参加申し込み方法 申し込み受付開始：3月1日より

会員の方は①会員番号②氏名、一般の方は①氏名②住所③電話番号④E-mailアドレスを下記の大会事務局までEメールか電話にてお申し込みのうえ、参加費をお振込みください。1日のみ参加の方は参加日を明記してください。学生・院生の方は、申込時に申告していただき、当日学生証をご提示ください。

第3回学術大会事務局 E-mail [gakutaikai2012@gmail.com](mailto:gakutaikai2012@gmail.com)  
電話 045-752-1759 (JAGT事務局)

### 参加費 (5月末日までの申し込みを事前登録とします)

事前登録	会員	4000円	非会員(一般)	5000円
当日参加	会員	5000円	非会員(一般)	6000円
学生・院生事前登録(会員)		2000円	非会員	3000円
学生・院生当日参加(会員)		3000円	非会員	4000円
懇親会費		5000円		

### 振込先

三井住友銀行 横浜駅前支店 普通預金 口座番号 8863229 日本ゲシュタルト療法学会

### 《会場案内》

#### ■ 東京駅から

JR中央線 約14分 新宿駅乗り換え  
小田急線 各駅停車 約3分 参宮橋駅 下車  
徒歩約7分

#### ■ 小田急線

参宮橋駅下車 徒歩約7分

#### ■ 羽田空港から

東京モノレール 約23分 浜松町駅乗り換え  
JR山手線(外回り) 約23分 新宿駅乗り換え  
小田急線 各駅停車 約3分 参宮橋駅 下車  
徒歩約7分

#### ■ 地下鉄千代田線

代々木公園駅(C02)下車  
(代々木公園方面4番出口)徒歩約10分





「心身療法」の重要性を説き、心身療法が「心」を「身」に投影し、その「身」が「心」に反作用する。心身療法は「心」を「身」に投影し、その「身」が「心」に反作用する。心身療法は「心」を「身」に投影し、その「身」が「心」に反作用する。

ご登録のメールアドレス宛にメールでお知らせいたします。ご登録のメールアドレス宛にメールでお知らせいたします。

### 「心身療法」の重要性を説き、心身療法が「心」を「身」に投影し、その「身」が「心」に反作用する。

心身療法は「心」を「身」に投影し、その「身」が「心」に反作用する。心身療法は「心」を「身」に投影し、その「身」が「心」に反作用する。心身療法は「心」を「身」に投影し、その「身」が「心」に反作用する。

## 日本ゲシュタルト療法学会

心身療法は「心」を「身」に投影し、その「身」が「心」に反作用する。心身療法は「心」を「身」に投影し、その「身」が「心」に反作用する。心身療法は「心」を「身」に投影し、その「身」が「心」に反作用する。





# JAGT

## 日本ゲシュタルト療法学会第3回学術大会 (第2報)

### 大会テーマ

### 「多様な現場で活用されるゲシュタルト療法の役割」

開 催 : 2012年 7月14日(土)・15日(日)

会 場 : 国立オリンピック記念青少年総合センター  
センター棟

大会長 : 岡本茂樹 (立命館大学)

### 後 援

日本ロールレタリング学会

日本産業カウンセラー協会

日本交流分析学会

日本交流分析協会



## 第3回大会に寄せて

日本ゲシュタルト療法学会第3回学術大会  
大会長 岡本 茂樹

本年度の日本ゲシュタルト療法学会第3回学術大会は東京で開催することになりました。大会テーマは「多様な現場で活用されるゲシュタルト療法の役割」です。今回は、前回大会の内容をさらに発展させたものにしたいとの思いから、このテーマにいたしました。第2回大会を振り返りますと、テーマのひとつである「これまでの軌跡」として、S.F.クロッカー博士の講演から、ゲシュタルト療法の根底に流れる現象学の理論について貴重な学びを得ることができました。そして、もうひとつのテーマである「これからの発展」は、会員による研究発表において、多様な現場でゲシュタルト療法が活用されていることを学ぶことができました。クロッカー博士ならびに発表して下さった会員の皆さま、ならびに第2回大会に参加していただいたすべての方々にお礼申し上げます。

今大会では、前回の大会で得た貴重な知見を踏まえて、ゲシュタルト療法が、多様な現場でさまざまに応用され活用されることが必要であることから「役割」という視点を取り入れました。数ある心理療法のなかで、とくに「感情」を重視したゲシュタルト療法は、理性といった「思考」に重きを置いている現代社会において、今最も必要とされる心理療法といっても過言ではありません。例をあげれば、「寂しい」という素直な感情を出せないがゆえに、「強くならなければならない」「しっかりした大人にならないといけない」といった思考が強く働いた結果、心の病に陥ったり犯罪を起こしたりする者さえいます。人間の原点である「感情」という大切な宝が軽視されているのです。その意味で、「今、ここ」で生き辛さを感じている人々だけでなく、普通に生活しているの方々にとっても、感情体験を重視するゲシュタルト療法が今こそ必要とされています。すなわち、ゲシュタルト療法が担う「役割」は大きいものと考えています。

第3回大会では、日本ゲシュタルト療法学会の理事長である百武正嗣先生に基調講演を行っていただき、ゲシュタルト療法の実践に不可欠な知識を深めたいと思います。そして、午後の研究発表では、昨年同様、多様な現場における実践の成果を発表していただきます。二日目の体験的ワークショップとシンポジウムでは、体験的理解や理論、実践報告などさまざまな分野における学びの場にしたいと思っています。

前回大会と同様、本大会も実りあるものとなりますよう、皆さま方のご参加をお願いいたします。



# 【大会プログラム】

7月14日(土)

9:30 受付

10:00 開会式

10:10 基調講演 百武正嗣(日本ゲシュタルト療法学会 理事長)

## 「家族連鎖の基本的な理論とアプローチ」

家族は特有な「時間と空間」を共有している独特な集団です。そのために家族関係では個人の「未解決な問題」が家族のメンバーに影響を与えます。家族の親が「未解決な問題」を持っている場合は子どもにどのように伝わるのでしょうか。世代間の「未完了」な問題は次の世代に伝わり家族連鎖を引き起こします。この家族連鎖を「場の理論」とゲシュタルトアプローチで理解していきます。

11:40 総会

12:20 昼食・休憩

13:30 特別講演 馬屋原真美子((株)東中国カウンセリングセンター)  
「東北被災地 時間経過に観る力と課題」

14:10 研究発表1

座長 江夏 亮(カリフォルニア臨床心理大学院・江夏心の教育相談室)

1. 宮木 智子((株)新医療総研 こぐま薬局)  
「薬剤師が行うゲシュタルトアプローチの事例報告」
2. 堤 俊也((株)ヒーリング・サポート はるかぜ薬局)  
「心理的背景に着目した調剤過誤対策と効果」
3. 河村 葉子 ハートフリースペース  
「摂食障害に対するゲシュタルト療法を用いた面接過程」

休 憩 (15:40~16:10)

16:10 研究発表2

4. 成田 幸子(HEALING ROOM NARITA)  
「エンプティ・チェアを活用した試み~人生を書き換える~」
5. 藤原 勝(ビジョンカム・トゥルー)・白坂 和美(ハロー)  
「日本文化(武道)とゲシュタルトセラピー  
~メキシコでの世界大会に参加して~」

17:10 終了

17:30 懇親会

会場: レストラン さくら (D棟9階) (全席禁煙)



7月15日(日)

9:30 受付

10:00 体験的ワークショップ1

司会者 山本 誠司 (G A Fnet)

発表者 百武 正嗣 (日本ゲシュタルト療法学会 理事長)

「家族のワーク」

家族における親子関係は個人の〈未完了〉な課題と家族システムから生じた課題がある。家族システムから作り出された「インパス(行き詰まり)」の背景には、世代間の〈未完了〉な出来事が背景にあることもある。家族のワークを通して、「場の理論」と「家族連鎖」の関係をみていく。

体験的ワークショップ2

司会者 河村 葉子 (ハートフリースペース)

発表者 守谷 京子 (パーソナルグロース研究所)

「企業管理職向けワークショップの実際」

企業管理者向けワークでは、時代の競争と文化の中での「インパス(行き詰まり)」、個人レベルでの「インパス」に対峙し、ワークで生じる抵抗を通し、自己のパターンとブロックを知り、各自の壁を破り、気づきを用い「今ここ」に即した決断を得、行動するなど、参加者の「人間力」の可能性を広げます。

12:30 昼食・休憩

13:30 シンポジウム「多様な現場で活用されるゲシュタルト療法の役割」

司会者 藤原 勝 (ビジョンカムトゥルー(株))

岡田 法悦 (産業領域) (ゲシュタルト・インスティテュート)

江夏 亮 (臨床領域) (カリフォルニア臨床心理大学院・江夏心の健康相談室)

定行 俊彰 (教育領域) (宮城県公立小学校教員)

岡本 茂樹 (司法領域) (立命館大学)

本大会の「多様な現場で活用されるゲシュタルト療法の役割」のテーマに基づいて、各領域で活躍されている4名のシンポジストから、活動内容を報告していただきます。そのうえで、フロアーからの質疑応答の時間をとり、ゲシュタルト療法が多様な領域で活用できる可能性を探っていきます。

16:10 閉会式



## 参加申し込み方法

下記の要領で大会事務局までEメールまたは電話にてお申し込みのうえ、参加費をお振込みください。

会員： ①会員番号 ②氏名 ③懇親会の出欠

一般： ①氏名 ②住所 ③電話番号 ④E-mailアドレス ⑤懇親会の出欠

・1日のみ参加の方は参加日を明記してください。

・学生・院生の方は、申込時に申告していただき、当日学生証をご提示ください。

第3回学術大会事務局 E-mail [gakutaikai2012@gmail.com](mailto:gakutaikai2012@gmail.com)

電話 045-752-1759 (JAGT事務局)

参加費 (5月末日までの申し込みを事前登録とします)

事前登録 会員: 4000円 一般: 5000円

6月～当日 会員: 5000円 一般: 6000円

学生・院生 事前登録 会員: 2000円 一般: 3000円

学生・院生 6月～当日 会員: 3000円 一般: 4000円

懇親会費 5000円

## 振込先

三井住友銀行 横浜駅前支店 普通預金 口座番号 8863229 日本ゲシュタルト療法学会

## 《会場：国立オリンピック記念青少年センター 案内》

### ■ 東京駅から

JR中央線 約14分 新宿駅乗り換え  
小田急線 各駅停車 約3分 参宮橋駅 下車  
徒歩約7分

### ■ 小田急線

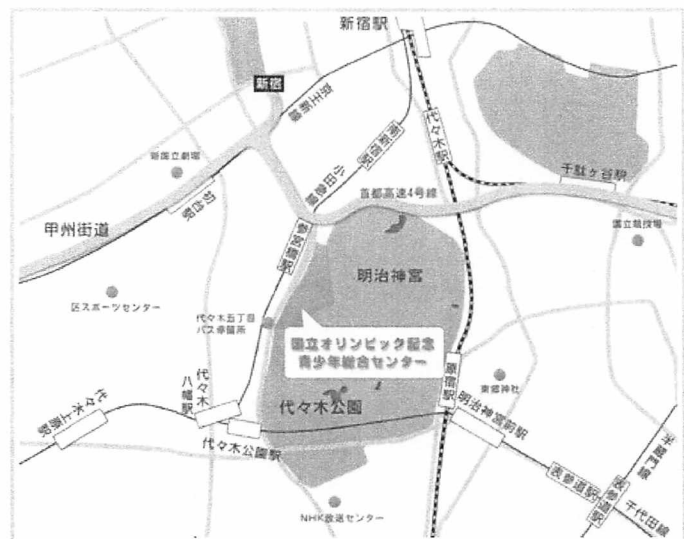
参宮橋駅下車 徒歩約7分

### ■ 羽田空港から

東京モノレール 約23分 浜松町駅乗り換え  
JR山手線(外回り) 約23分 新宿駅乗り換え  
小田急線 各駅停車 約3分 参宮橋駅 下車  
徒歩約7分

### ■ 地下鉄千代田線

代々木公園駅(C02)下車  
(代々木公園方面4番出口)徒歩約10分



 **JAGT 日本ゲシュタルト療法学会**



# JAGT

## 日本ゲシュタルト療法学会第3回学術大会

「多様な現場で活用されるゲシュタルト療法の役割」

### 開催日

2012年7月14日(土)・15日(日)

### 会場

国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟

### 大会長

岡本茂樹(立命館大学)

#### 7月14日(土)

9:30 受付

10:00~開会式

10:10~基調講演 百武 正嗣(日本ゲシュタルト療法学会 理事長)

「家族連鎖の基本的な理論とアプローチ」

11:40~ 総会

12:00~ 昼食

13:30~ 特別講演 馬屋原 眞美子((株)東中国カウンセリングセンター)

「東北被災地 時間経過に観る力と課題」

14:10~ 研究発表

17:30 懇親会

会場: レストラン さくら (D棟9階)

#### 7月15日(日)

9:30 受付

10:00~ 体験的ワークショップ

①百武 正嗣(日本ゲシュタルト療法学会 理事長)

「家族のワーク」

②守谷 京子(パーソナルグロース研究所)

「企業管理職向けワークショップの実際」

13:30~ シンポジウム「多様な現場で活用されるゲシュタルト療法の役割」

#### 後援

日本ロールレタリング学会 日本産業カウンセラー協会

日本交流分析学会 日本交流分析協会

## 参加・お申し込み方法

下記の要領で大会事務局までEメールまたは電話にてお申し込みのうえ、参加費をお振込みください。

<b>会員</b>	①会員番号 ②氏名 ③懇親会の出欠	
<b>一般</b>	①氏名 ②住所 ③電話番号 ④E-mail アドレス ⑤懇親会の出欠 ・1日のみ参加の方は参加日を明記してください。 ・学生・院生の方は、申込時に申告していただき、当日学生証をご提示ください。	
<b>参加費</b>	事前登録	会員 4000円 一般 5000円
	6月～当日	会員 5000円 一般 6000円
	事前登録	会員 2000円 一般 3000円
		学生・院生
	6月～当日	会員 3000円 一般 4000円
	<b>懇親会費</b>	5000円

### 第3回学術大会事務局

E-mail [gakutaikai2012@gmail.com](mailto:gakutaikai2012@gmail.com) / 電話 045-752-1759 (JAGT 事務局)

#### 振込先

三井住友銀行 横浜駅前支店 普通預金  
口座番号 8863229 日本ゲシュタルト療法学会

《会場：国立オリンピック記念青少年センター 案内》

渋谷区代々木神園町3番1号

#### ■ 東京駅から

JR中央線 約14分 新宿駅乗り換え  
小田急線 各駅停車 約3分 参宮橋駅 下車  
徒歩約7分

#### ■ 羽田空港から

東京モノレール 約23分 浜松町駅乗り換え  
JR山手線(外回り) 約23分 新宿駅乗り換え  
小田急線 各駅停車 約3分 参宮橋駅 下車徒歩  
約7分

#### ■ 小田急線

参宮橋駅下車 徒歩約7分

#### ■ 地下鉄千代田線

代々木公園駅(C02)下車  
(代々木公園方面4番出口)徒歩約10分

